

日本臨床内分泌病理学会理事会 議事録

日 時：2017年4月21日（金）12:10～13:40

場 所：京都市勧業館みやこめっせ B1F 第3会議室

出席者：山田正三 理事長、笹野公伸 副理事長、島津 章、方波見卓行、屋代 隆、加藤良平、
戸田修二、吉本勝彦、近藤哲夫、田辺晶代、岡本高宏、菅間 博の各理事、井下尚
子 監事

欠席者：松野 彰 理事、柴田洋孝 監事、長村義之 顧問

議 題：

<審議事項>

1. 特別功労賞、佐野賞及び亀谷賞の候補者の件
2. 研究賞（最優秀賞・奨励賞）の選考委員（3名：会長推薦）について

<報告事項>

3. 第20回（2016年度）学術総会の報告<決算を除く>
4. 第21回（2017年度）学術総会の概要
5. 第22回（2018年度）学術総会の準備状況
6. 学会HPへのバナー広告募集の取組み
7. 海外との連携について：① EPS2017、② 豪州 Griffith 大学での内分泌病理教育セミナー、③ 韓国との内分泌病理セミナー
8. コンサルテーションの状況
9. 第91回（2018年度）JES学術総会P委員会の結果
10. 第93/94回（2020/2021年度）JES学術総会P委員（本学会推薦）について
11. 会員の状況について
12. e-Book 作製に向けた企画提案のその後
13. 学会への寄付金および賛助会員の状況
14. 次回理事会の開催予定について
15. その他

冒頭、山田理事長より、理事の欠席は1名で本理事会は成立する旨の報告があり、引き続き同理事長により議事進行が行われた。なお、議題に入る前に、山田理事長より、日本内分泌学会事務局の移転が本年6月中旬に決まったこと、会員への周知は今年度会費請求レターやメール一斉配信により行うことが報告された。

<現住所>

〒604-8111 京都市中京区三条通柳馬場西入る栴屋町75番地 京王京都三条ビル3階

<移転先住所>

〒600-8441 京都市下京区新町通四条下る四条町343番地の1 タカクラビル6階

<審議事項>

1. 特別功労賞、佐野賞及び亀谷賞の候補者の件

山田理事長（学会賞選考委員長）より、応募のあった佐野賞及び亀谷賞各1件について選考委員会での審議経緯が説明され、両候補者は満場一致にて理事会で承認され決定した。なお、特別功労賞の推薦はなかった。

応募締切：2017年2月末日

選考委員会（書面による持ち回り審議）：2017年3月21日～3月31日

選考委員：委員長＝理事長、委員（7名）＝副理事長、五筆頭理事、当該年度会長（各賞応募者の推薦者は選考に参加せず）

（1）佐野賞

コトウ テツオ

- ・近藤 哲夫（山梨大学医学部 人体病理学講座）

テーマ：甲状腺発癌と分化制御の分子メカニズム

（2）亀谷賞

モイ リコ

- ・元井 紀子（国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院病理・臨床検査科）

テーマ：肺神経内分泌腫瘍に関する臨床病理学的研究

2. 研究賞（最優秀賞・奨励賞）の選考委員（3名：会長推薦）について

田辺理事（第21回学術総会会長、研究賞選考委員長）より、今年度選考委員として、萱間 博理事、井下 尚子監事、柴田 洋孝監事の3名を推薦したいとの提案があり、満場一致で承認された。

<報告事項>

3. 第20回（2016年度）学術総会の報告<決算を除く>

欠席の松野理事（第20回会長）に代り、山田理事長より学術総会概要が報告され、豊富な企画により盛況裏に終了したことが報告された。決算については秋の理事会で報告される。

- ✓ 開期・場所：2016年9月16日（金）～17日（土）帝京大学板橋キャンパス大学棟
- ✓ テーマ：基礎と臨床からみる内分泌
- ✓ 日程：

9月16日：シンポジウム「内分泌：病理と臨床クロストーク下垂体・副腎・甲状腺」、ワークショップ、一般演題、ランチョンセミナー、評議員会・総会、学術賞受賞講演、イブニングセミナー、会員懇親会

9月17日：神経内分泌学会 Joint International Symposium「視床下部・下垂体の全て」、特別企画「甲状腺境界病変の導入と甲状腺診療へのインパクト」、一般演題、ランチョンセミナー、研究賞表彰式

- ✓ シンポジウム：20 題、ワークショップ：3 題、一般演題：21 題（特別講演、セミナー、受賞講演、特別企画を除く）
- ✓ 参加者：96 名（招待者除く）

4. 第 21 回（2017 年度）学術総会の概要

田辺理事（第 21 回会長）より、学術総会のプログラム概要が報告された。また、病理分野の若手を対象に 27 日夕方（16 時半から）に症例報告・病理研究のポスターセッションを行うとの構想が示され、役員への協力と声掛けが依頼された。若手の年齢や職務範囲、座長の選定、優秀発表への表彰と記念撮影の有無など今後検討が進められるが、理事長より、本学会の PR のためにも良い取組であり、是非前へ進めてもらいたいとのコメントがあった。

- ✓ 会期・会場：2017 年 10 月 27 日（金）～28 日（土）東京コンベンションホール
- ✓ テーマ：病理学と内分泌学～融合と飛躍
- ✓ 予定プログラム：特別講演、学術賞受賞講演、教育講演、シンポジウム、ランチョンセミナー、一般演題
- ✓ 演題募集：2017 年 5 月 15 日～7 月 14 日 学会研究賞/トラベルグラントの選考有

5. 第 22 回（2018 年度）学術総会の準備状況

吉本理事（第 22 回会長）より、他学会との重なりを考慮した上で第 22 回学術総会の開催日時を仮決定したこと、今後、特別演題を含めたプログラムの編成を進めて行く旨の報告があった。

- ✓ 会期・会場：2018 年 9 月 21 日（金）、22 日（土）徳島大学蔵本キャンパス
- ✓ テーマ：発祥の地から病態を探求する（仮）
- ✓ プログラム編成方針：未定

6. 学会 HP へのバナー広告募集の取組み

屋代理事（広報担当）より、学会 HP へのバナー広告募集の取組みについて、① HP への掲載と宣伝については、「バナー広告案内」を入会案内と並列でトップページに記し、入会案内サブページの「学生会員制度」の下に「バナー広告募集のご案内」文を掲載すると共に「バナー広告申込書」へのリンクを設定すること、② バナー広告はトップページの最下段に置くこと、が報告された。また、掲載料については賛助会員によるバナー広告は無料とし、賛助会員以外は一律 5 万円とすること、掲載案内を出すメーカーについては屋代理事が役員との協力を得ながら 3～4 社選定することになった。バナーの規程案については承認された。

7. 海外との連携について

笹野副理事長より、EPS2017 のコンパニオンミーティングを 3 月に開催したこと、また、豪州 Griffith 大学での内分泌病理教育セミナー（2018 年 2 月 2～3 日）への参加を検討中

であるとの報告があった。また、加藤理事より、今秋の IAP (International Academy of Pathology) 会議の場を利用した日韓合同の内分泌病理症例カンファレンスを 10 月 4 日に開催し、これを皮切りに CPC のような形での連携を考えていきたいとの構想が報告された。これらを受けて、山田理事長より、本学会の PR も同時に進めてもらいたいとの要望と共に積極的にサポートしていきたいとのコメントがあった。

8. コンサルテーションの状況

近藤理事（コンサルテーション委員長）より、開設後の依頼件数は順調に増えてきたものの昨年度はたまたま 2 件の依頼に留まったことが報告された。また、コンサルテーション専門医更新の提案があり、近藤理事がリスト案を提示され、検討を進めることになった。

9. 第 91 回（2018 年度）JES 学術総会 P 委員会の結果

田辺理事（本学会代表プログラム委員）より、第 91 回日本内分泌学会学術総会において採用予定の内分泌病理領域の特別演題プログラム（シンポジウム・教育講演・クリニカルアワー・CPC）について報告があった。以下、演題名（最終決定ではない）。

- シンポジウム：原発性副甲状腺機能亢進症 Update、副腎腫瘍・クッシング症候群ルネサンス、褐色細胞腫～最新の治療戦略、原発性アルドステロン症の診断における新たなエビデンス、原発性アルドステロン症の発症病因に関する進歩、Endocrine oncology：NGS の臨床応用、褐色細胞腫 Up to date
- 教育講演：下垂体の細胞外マトリックスの構造と機能、甲状腺癌取扱い規約第 7 版、甲状腺外科の進歩、副腎偶発腫の鑑別診断 ABC
- クリニカルアワーはシンポジウムとの重複が多いので、今年度の学術集会ではシンポジウムに統合
- CPC：下垂体と甲状腺のみで、副腎関係は企画されず（下垂体は山田理事長一任）

山田理事長より、田辺理事はもう一期本学会代表のプログラム委員を継続されるので役員は今年度非採択の演題も含めて特別演題の希望を田辺理事に伝えてプールしていただきたいとのコメントがあった。

10. 第 93/94 回（2020/2021 年度）JES 学術総会 P 委員（本学会推薦）について

山田理事長より、第 93/94 回日本内分泌学会学術総会プログラム委員として、本学会から岡本理事（企画学術担当）を推薦したことが報告され、了承された。

11. 会員の状況について

加藤理事（庶務担当）より、本学会会員数について、2013 年度をピークにその後は微減の状況にあることが報告された。最盛期の会員数と比較して減少傾向にあることから、山田理事長より、学会名に「臨床」を加えて新たなスタートを切ったことでもあり、会員数増加

に向けた方策を話し合いたいとの提案があり、① 本学会への参加が日本病理学会員の専門医単位取得に役立つことの周知、② 親学会である内分泌学会の学術総会期間中の「内分泌病理セミナー」の開催提案（会長の考え如何による）、③ 本学会の年度学術総会での若手対象の「教育セミナー」の企画、④ 他学会とのリレー開催の推進、⑤ コンサルテーション制度の周知、運用推進と病理診断依頼者への入会の勧誘、等が議論された。

12. e-Book 作製に向けた企画提案のその後

吉本理事（財務担当）より、現在のところ具体的なテーマや企画に関する提案は出ていないが、提案があれば Springer に電子出版の可能性について問合わせたいとの報告があった。

13. 学会への寄付金および賛助会員の状況

山田理事長より、来年度の寄付に向けてノボ・ノルディスクファーマ株式会社と交渉中であること、ファイザー株式会社には本年度も賛助会員を継続していただけることが報告された。

14. 次回理事会の開催予定について

山田理事長より、東京での第 21 回日本臨床内分泌病理学会学術総会の開催前日（2017 年 10 月 26 日）の 16 時から秋理事会を開催する旨の予告があった。

15. その他

特になし。

以上

（作成：事務局、理事長・副理事長・筆頭理事・会長：校閲済）